

<支援企業を訪問しました>

有限会社 味衛門 殿

「一食のお客様を大切に、現場改善で収益を向上！」

有限会社 味衛門（名取 浩社長、上尾市）は、社長が現会長である先代の背中をみて、店舗を持たなくても飲食業ビジネスが出来る事を学び、1年間の修行後平成2年10月に上尾市原市で“仕出し料理センター”として創業しました。

弁当一つの調理・配達というゼロからの出発で創業当初は苦勞の連続、新聞折込みやチラシで注文獲得を狙ったが、1ヶ月で10食程度の売上の時もありました。そこで訪問販売に切替え、弁当1ヶからの注文を大切にし、徐々に口コミで注文が増えて行きました。

その後業績は順調に推移し、事業拡大の為創業から2年後に現在のさいたま市浦和区に事務所及び料理センターを開設し、埼玉スタジアム等へのイベント事業に進出しました。



名取社長(右)と支援者田村さん

売上は順調に伸びていきましたが、会社の対応力把握が不十分な中での事業拡大であった為、この業界特有の季節需要変動の激しさにうまく対応できなくなり、上尾商工会議所経営指導員に相談、上尾アブセックを紹介され経営診断をお願いしました。依頼を受けたアブセックの奥田さんは、真っ先に取り組む課題は「現場を改善し、生産性向上を図る」ことをアドバイスし、(有)味衛門と現場改善支援経験豊かなアブセック田村さんとの改善活動がスタートしました。

田村さんは従業員の意識改革からスタートし、具体的な現場改善、営業マン教育等を推進し、現場の作業効率が向上しました。例えば「当日の仕事の手順を掲示板で明確に」「弁当の配膳写真を作業者の前に」等々の改善を短期間で実施し作業の能率が上がりました。向上心が高まってきた作業者からの改善提案が出始め、翌日の仕事の段取り、職場ミーティングの活性化等に繋がってきました。



弁当の配膳写真

名取社長は「職場の情報がタイムリーに入るようになり、敏速な対応が可能になりました。本年度は西武スタジアムのイベント参加も果たし充実した年となりそうで喜んでます。また当社の更なる発展を図る目的で策定の経営革新計画の承認を受けてレベルアップを目指したい。その為にもまだまだアブセックの支援が欠かせません。人がいれば出来ると思っていたが、人の動きを良くする事の大切さを学んだ年だった」と笑顔で話されました。

上尾商工会議所は、桶川市商工会・伊奈町商工会・北本市商工会・鴻巣市商工会・川里商工会と連携して、県の中小企業支援事業であるエキスパートサポート事業に取り組んでいます。



ご意見・お問い合わせはこちらまで

上尾商工会議所 桶川市商工会 伊奈町商工会 北本市商工会 鴻巣市商工会

アブセック事務局 TEL 048-773-2391 E-mail abcec@ageocci.or.jp